

## 猫の幸せ

一年 深谷煌成

僕の家には保護猫が居ます。四年前の夏の夜、ショッピングセンターの広い駐車場の、車と車の間を一匹で行ったり、来たりしている小さな猫を見つけました。今にも車にひかれそうで、見ていてとてもヒヤヒヤしました。片手に乗るくらいの小さな子猫に可愛いという感情と、車にひかれる前になんとかしたいという気持ちでお店になかなか入れませんでした。捕まえて安全な所に連れて行ってあげたかったけど、逃げられてしまい、

「もしかしたら、親猫が近くに居るかもしれないよ？もし、助ける気持ちで触っても、人間の匂いがついた子猫を親猫が育てなくなってしまうたら、この小さな猫は、一人ぼっちになっちゃうよ？」と母が言いました。それを聞いた僕と妹はなんだか悲しい気持ちになりました。なかなかお店に入れなかった僕は、買い物をして戻ってきた時にまだ居たら、保護しようということになり、お店へ入りました。買い物中妹は、ずっと猫の話ばかりしていました。母は、僕達に猫を保護することがどういふことなのかを話してくれました。母の実家では、十八年生きた猫が居ました。その猫も保護猫でした。

「里親が見つからなければ、家で飼うことになるんだよ？」と母に言われた時、

「じゃあ、家で飼えばいいじゃん。」と思わず言っていました。僕達は、あの子が親猫といっしょに居てほしいという気持ちと、まだ、一匹で駐車場に居てほしいという複雑な気持ちのままお店を出ました。あの猫は、まだ一匹で車の下を行ったり、来たりしていました。今度は僕達に近づいて来て保護することができました。それから四年。我が家でのんびり元気に暮らしています。

今、年間で二万〜三万匹の猫が殺処分の対象となっています。一方、約二十万匹の猫が販売されています。全国犬猫飼育実態調査では、約八百八十万匹の猫が飼育されているようです。

血統書付きで、ぬいぐるみのようにきれいに手入れされた数カ月の子猫を、可愛いと言い、高額で取り引きされている猫と、どこかに住みついて、フラッと寄り道しただけで、ラッキーの象徴とされ、あくびをしたり、かゆくなった背中を地面にこすりつけただけで可愛いと、写真を撮られ、なでもらう気ままに年を重ねる程、愛情を多くの人からもらう猫、どちらがいいかは人それぞれだけど、僕は、あの日出逢えて家族になったうちの猫は、最高だと思っている。万人から可愛いと言われる小さな時期は、どの猫にもあり、一時のかわいさの為、沢山に増やす命より、今ある大切な命を守りたいと僕は思うようにになりました。今僕の足元でグッスリ眠っているこの猫が、少しでも幸せに長生きしてくれたら嬉しいです。